

## ジャムズネット東京メンバーインタビュー 第7回

聞き手：池田みどり

第7回は社会福祉制度を研究されている進藤由美さん。特に海外に住む方にとって、福祉は切実な問題です。ニューヨークで実際に福祉活動に関わりながら見えてきた、海外に住む日本人の権利と義務を考えます。

### ■進藤由美さん



日本心理学会認定心理士。東京都にある高齢者在宅サービスセンターに勤務後、米国コロンビア大学にて公共経営修士号を取得。日米の社会保障制度(特に高齢者)に関する相談業務に携わる。

現在早稲田大学大隈記念大学院公共経営研究科博士後期課程在籍中。

ブログ「海外で生活されている日本人の方へ」：<http://checkyoursocialsecurity.blogspot.com/>

### ・大学では何を専攻されていたのですか？

もともと運動が好きで、スポーツ科学科というところに進学し、スポーツ心理学を学ぶ研究室に所属しました。論文の課題を決めかねていたとき、特別養護老人ホームの施設長をしている親戚から、「うちの施設を使っていいよ」と連絡があったので、飛びつくようにしてお願いしました。

幸いなことに、指導教員の先生の奥様が、高齢者福祉施設に関する研究の第一人者ということもあり、「スポーツ心理学」の研究室にしながら、高齢者の心理学をテーマに、卒業論文を書くことができました。

### ・そうすると、卒業論文が福祉研究のきっかけになったわけですね？

そうなんです。卒業論文のために親戚の施設に通っていた時、「高齢者について勉強するなら、ちゃんと実践もつみなさい」という一言のもと、施設で簡単な介助の手伝いをした

んです。お年寄りの関節稼働域の小さいこと、足の筋力が落ちると寝たきりになりやすいこと、口内が乾燥しやすく、食べ物の飲みこみが弱いことなど、高齢者の身体的特徴を実戦で学びつつ、大学で心理的特徴を学ぶことができました。

大学を終えた後は、心理士としての資格を取りたいと思い、大学院に進学しました。修士論文は「高齢者の転居における適応プロセスに関する研究」というタイトルなのですが、新規に設立された特別養護老人ホームに入居される高齢者たちの適応プロセスを、心理的モデルに基づいて検証するという内容です。

大学院卒業後は東京都東久留米市にあるデイサービスセンターで働きました。最初はホームヘルパー派遣事業の相談員だったのですが、デイサービスのケアワーカーの数が足りないということで、ケアワーカーに転向。高齢者介護の実践を現場で学びました。今でも、おむつ交換や入浴介助、着替えの介助は得意ですよ！

#### ・その後、コロンビア大学に入学されましたが、そのいきさつを教えてください

もともと、いつか博士号を取りたいなと思っていました。が、英語はまさに「大きな壁」。そこで、ニューヨークに1年間語学留学することにしました。

当初は短期間の滞在のつもりだったのですが、たまたま知人を通じて知り合ったご家族が、高齢者の介護で大変な思いをされており、その方の介護ボランティアをしているうちに、他の方も紹介され・・・と、気が付いたら12名もの日本人高齢者の介護ボランティアをしていたんです。先進国アメリカで、日本の高齢者が、ケアを受けることもなく、ボランティアである私を頼らなければならない事態というのはどういうことだ？と思いました。系統立てて勉強するために、コロンビア大学の School of International and Public Affairs (国際・公共政策学研究科)に入学。社会保障政策とNPO マネジメントを専攻しました。

#### ・同時にいくつかのNPO団体でも活動をされていましたが、詳しく教えてください

大学院在学中に、日米ソーシャルサービス(JASSI)と国連傘下のNGOであるGlobal Action on Agingでインターンをしました。日米ソーシャルサービスには多くの日系人・邦人高齢者の方が登録をされており、イベント等のお手伝いを通じ、皆様からたくさんのことを学ばせてもらいました。また、Global Action on Agingでは、世界中の高齢者に関するニュースをウェブで公開する仕事をしていたのですが、この時しみじみと「日本語は日本人にしか通じない」ことの残念さを味わいました。また、この団体を通じて、国連が毎年10月に開催している「International Days of Older Persons」の事務局を担当させていただくという

貴重な体験をしました。

大学院を修了する直前に、ニューヨーク日系人会にできた邦人・日系人高齢者問題協議会のメンバーとなりました。協議会では意識調査や社会資源調査を担当させていただいたり、相談業務や勉強会を行ったり、ウェブサイト([www.agingjaa.org](http://www.agingjaa.org))のコンテンツを作成したりなど、いろいろなことに挑戦させて頂きました。

**・現在博士号取得のために、論文を書いておられるそうですが、差しさわりのない程度で内容を教えていただけますか？**

「海外在住邦人高齢者の方々を、政府、NPO/NGO、民間企業が、それぞれどのような形で援助できるか」について研究しています。とはいっても、まだいろいろな角度から論文の構成を練っているところなので、どういう形でアプローチするかは決まっていません。

**・国籍を持つことと、社会福祉保障を受けることの違いについて、教えてください**

博士論文にも関わってくるのですが、私は「国籍＝社会保障受給権」とは思っていません。国民の義務である「納税」を通じて、初めて受給権が生じると考えています。とすれば、海外に住んでいる人はどうなるのかといった疑問がわいてくるのですが、アメリカの場合、市民と永住権保持者はアメリカ国外にいても、米国政府に所得の申請をしないとイケないんですね、また、たとえ市民であっても、本人もしくは配偶者が米国内で10年以上の就労経験がなければ、メディケア(高齢者用医療保険)のパートA(入院保障)の月額保険費が無料にならないなど、「米国内で税金を納めている期間」を考慮した形で社会保障を提供しています。私個人の意見ではありますが、これは大事なポイントではないかな、と・・・

逆に、国民の権利として守るべきものの1つに参政権があると思います。現在外国人にも選挙権を与えようという動きが日本国政府にあるようですが、これは非常に慎重に議論されるべき問題だと思っています。というのも、外国人参政権が認められれば、外国籍の方々が多く住む地域では、外国籍の方々が応援している人が選挙で当選する可能性が出てきます。もし、外国籍の方々が応援している議員の方が議会の半数以上を占めた場合、極端な例でいえば、「外国籍の人間は住民税を納めなくてもよいが、社会保障を受ける権利は認められる」というような、外国籍の方に有利な社会になっていく可能性があるわけですね。これは日本国のために良いことなのでしょうか？

博士論文にはこれらのことも交えながら、海外にいる日本人に対し、日本国が権利として与えられるものは何か、義務として何を求めるのか、「国」という枠を超えて、援助できるこ

とは何かなどを追及していきたいと思っています。

社会保障については、考えるところがたくさんあるので、自分の考えの整理を兼ねて、つい最近ブログを立ち上げました(<http://checkyoursocialsecurity.blogspot.com/>)。お暇な時にご一読いただければ幸いです。

#### ・ジャムズネット東京に期待すること

海外で活躍された優秀な人材が集まっている会ですので、いろいろな形で交流を深めると同時に、皆様の技能、知識、経験を活かせる場を広げていけたらと思っています。私も微力ながらお手伝いしたいと思います！